

## 第 11 期県民生活審議会 第 2 回県民生活部会（議事要旨）

1. 日 時 平成 29 年 5 月 30 日（火）10：00～12：00
2. 場 所 兵庫県民会館 9 階 902 会議室
3. 出席者 委員：鳥越会長、小西部会長、金曾委員、木田委員、田端委員、野崎委員、原委員、盛委員、森委員、山口委員、山崎委員、山下委員  
県側：山口政策創生部長、橋本県民生活局長、久戸瀬県民生活課長、三宅県民生活課副課長、横山参画協働・ボランティア活動支援班長、幹事課室ほか関係職員
4. 議 事 （1）平成 28 年度 参画と協働関連施策の年次報告について  
（2）参画と協働のフォローアップについて

### 5. 主な内容

#### 【平成 28 年度 参画と協働関連施策の年次報告について】

##### ○活動のマンネリ化

- \* 単に情報不足によるものではなく、地域課題を発見し、課題を設定して取組み内容を考え、イキイキとした運営につなげていくという一連のスキルアップが十分でないことが課題。

##### ○若者世代の参加

- \* 若者世代にいかに入ってきてもらえるかが大きな課題。県民意識調査の「地域活動に参加しにくい」あるいは「活動しない理由」として、仕事や学校等が忙しくて暇がないという項目が最多。気軽に参加できそうなのというのが参画意欲を喚起する条件。若者がどういう状況の時に参画しようとするのかということを考えると、教育委員会との連携が大切。
- \* 高校生などの社会貢献活動のネックは、クラブ活動等として参加するため、月に 1 度などに限定されること。自由に、空いた時間に参加できるようになれば、活動が広がる。

##### ○情報提供

- \* 誰が興味を持って見るのかという視点が大切。情報提供する人が、様々な地域間の連携を進めたり、コーディネートしたり、ファシリテイトしたり、そのような人材に育っていくようなプログラムがあった方が良い。身近な情報が上がれば、地域の人も必然と見るようになる。

##### ○資金調達等の記載基準

- \* 資金調達、寄附文化の醸成など、施策として民間がやっているものを、どこまで載せるのかという判断基準について考えた方が良い。
- \* 地域づくり活動への支援、資金不足はいろいろなところで指摘されており、県民の皆さん、あるいは事業者がやっていることに、触発される人や事業所が増えれば良い。そうでないと効果が限定的になる。

##### ○企業協賛

- \* 公の組織は、企業協賛に関して意識が進んでいないのではないかと。継続して活動できる事が大切。協賛企業を「大切にしよう、選ぶ方の自己責任」と、意識的に協力してくれることが必要。
- \* 交渉において、ファシリテーター、コーディネーター、そういう人達の能力として、スキルアップが必要。

## ○記載形式

- \* 報告書には総論のようなものがあるのではないかと。特集主義で、本年度は青少年を特集する、他は定例的な報告をするという編集をすると、メリハリがきくのではないかと。
- \* 特集主義や総論を置くような報告書スタイルを辞める方針で決定し、現在の形式になっており、しばらく継続する事は大事。またどのようなスタイルが良いか、有識者に集まって議論してもらいやり方もある。
- \* 来年度以降、変えた方がいいという意見が多く出てくれば、その辺りを考えるのも一つ。

## ○対象となる層の表記方法

- \* 女性・シニア・若者と捉えると、男性はどうなのか疑問。書き方が時代に合っているのか。

## ○市町の取組状況の記載

- \* 市町の参画協働HPのURLや担当課はどこなのかということをも明記する方向に修正した方がよい。

## 【参画と協働のフォローアップについて】

### ○これからの参画と協働と当審議会の役割

- \* 参画と協働の条例制定時、参画と協働を時代の流れの中で押さえておくため、年次報告を出す必要があった。県が新しい時代にあった概念をつくっていったら良い。今後の課題として、新しい参画と協働の理念をつくるなり、何が問題なのかと提起できる方向にならなければいけない。そういうことがこの審議会に期待されているのではないかと。
- \* 兵庫県が参画と協働の条例を作るまで、地域住民の間のパートナーシップについて書いているところは無く、阪神・淡路大震災の経験をベースに条例をつくった。そのあたりは、残しておきたい。

### ○補助金

- \* 自治会の中には、地域の指導者を募集し、必要な資金について、共鳴を受けた人が募金して事業を行う地域もある。しかし、補助金ありきで活動している場合も多い。地域が前へ進める形の補助金は必要な場合もある。

### ○参画と協働の新しい方向（企業とのパートナーシップ）

- \* 全て補助金に頼るのではなく、社会の課題を解決するために自分達も参画しているということを、参加費を出すことで表現する。そういう志を伝えていくことが、これからの参画と協働には大事。
- \* 大学、専門機関、企業等、地域の中にあるすべての職業、いろいろな立場の人達とつながるのが、最終的な参画と協働の形。21世紀型の参画と協働の柱に、お金の仕組み、金融機関とのパートナーシップという点を据え、取り組んではどうか。企業からの資金に対して、NPOは企業に何を返せるのか、新しい参画と協働を兵庫県から打ち出す提案をしたい。

### ○評価指標

- \* 一元的な評価でない社会にならなければ、様々な価値観を持った人達、その方々がやる事業をどう評価して把握するかは難しい。
- \* 頑張っているということに関する評価基準や指標などが必要。

- \* そこにあるものをどこかに流れないようにすることは難しいが、地域通貨のようなものがあれば、地域の中でまわっていくので、可能性がある。
- \* 評価の基準をどうするのかということを整備していくのが行政の役割。資金の部分でいくと、行政がお金を出さなくても企業が集められる仕組みのようなもの。

#### ○年次報告の位置付け

- \* 庁内の施策相互の位置付けや、参画と協働のパースペクティブ（見通し）を示すと、この年次報告が生きてくる。

#### ○参画と協働フォローアップの集約方向

- \* 地域の持っている総合的なものと、行政の総合化が上手く合致するような視点を常に持っていないといけない。協働参画の総合化と、現場目線で物事を捉えていくことは1つのこと。
- \* 県として何を目指してこのような支援をするのかという、県の施策の目標と、そのためにこういうところに働きかけるのだというような整理で、まとめてみたらどうか。
- \* 資金調達の支援で、県がお金を出すということに対する、いわば何のためにどれだけということと、地域で独自に資金を獲得していくための環境整備をしていくという県の施策目標と、そのパフォーマンスを図ることは違う。何を狙っているのか、もう少しわかるように、この施策の状況のところをまとめ直したらどうか。

→フォローアップは、本日の意見を踏まえて会長と部会長と事務局で考え、11月頃の次回部会に提議し、再度ご議論頂くという部会長提案を了承し、終結。